音楽科学習指導案

指導者 甫出 頼之

- 1 日 時 令和6年11月16日(土) 第1校時(9:00~9:50)
- 2 学年・組 中学校第1学年2組 計40名(男子19名, 女子21名)
- 3 場 所 中学校音楽室
- 4 題 材 名 「生活や社会の中の音」で音楽をつくろう
- 5 題材について

学習指導要領では、音楽科の目標として「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」を目指すとして定義されている。本題材では、生徒が「生活や社会の中の音」に目を向け、生活や社会と音の関係に興味をもつようにするため、「家のリビング」や「近所の公園」といった生徒にとって身近な「場所」をテーマに設定し、「生活や社会の中の音」を使ったアンサンブルの創作をグループ活動で行う。参考曲として聴取する管弦楽曲『シティ・ライフ』(スティーブ・ライヒ作曲)では、サンプラーを使用し、作曲者が在住するニューヨーク市とその周辺で録音されたスピーチの声やサイレンの音、車のクラクションやブレーキ音など、さまざまな音が使われている。特に、スピーチの声(It's been a honeymoon)のみでリズムが刻まれる第3楽章の冒頭部分は、アンサンブル創作の参考になると考えられる。

本学級の生徒は、7月に4人グループで打楽器アンサンブルの楽曲に取り組み、発表会を行った。すべてのグループが同じ楽曲の楽譜を使用したがる、楽器の構成や速さ、音の強さなどを工夫することで、楽曲の雰囲気が変化することを実感できた。また、10月初旬に開催された文化祭の舞台発表では合唱を発表し、学級の仲間たちと音楽をつくり上げることに充実感を感じている様子が、文化祭後のアンケートの記述からうかがえた。

指導にあたっては、生徒が簡単な操作で「生活や社会の中の音」を録音・再生できるよう、タブレット端末のサンプラーアプリ「Koala Sampler」を使用し、グループ活動で生徒がしっかりと試行錯誤できる環境を整える。「Koala Sampler」では、最大64種類の音を録音できるだけでなく、無音部分の自動削除機能や音のピッチを微妙に調整する機能も備えているため、今回の授業実践に適していると言える。

6 題材の目標

- (1) 録音した「生活や社会の中の音」を使い、効果的に音を重ねたりリズムを刻んだりしてアンサンブルをつくる。
- (2) 「生活や社会の中の音」を録音し、設定したテーマをアンサンブルで表現する。
- (3) 「生活や社会の中の音」に興味をもち、さまざまな音を録音して、それらを使い楽しく音楽活動を行う。

7 指導計画(全5時間)

次	時	学習内容
1	1	学校の中でさまざまな音を探して録音する。
	2	聴取した音楽を参考にし、各グループでテーマを設定する。 また、「生活や社会の中の音」を、家庭などで録音することを課題として設定する。
2	3・4	録音した音を素材にして、アンサンブルの創作活動を行う。(本時4/5)
3	5	創作したアンサンブルを発表する。

8 本時の目標

録音した「生活や社会の中の音」を使い、設定したテーマをアンサンブルで表現する。【思考・判断・表現】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	「生活や社会の中の音」に興味をもって録音し、設定したテーマで他のグループの意見も参考にしながら、アンサンブルを創作できる。
Ⅱ	「生活や社会の中の音」に興味をもって録音し、設定したテーマでアンサンブルを創作できる。
Ⅰ	「生活や社会の中の音」を録音し、設定したテーマでアンサンブルを創作できる。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○生徒の身近な生活の中からテーマを見つけ、「生活や社会の中の音」を使って創作することで、音楽と生活、社会とのつながりを考えさせることができるようにする。【授業構想力】	
○タブレット端末のアプリ「ロイロノート」の画面共有機能を利用して、個々の意見を教師と生徒で共有しながら、さまざまな意見をまとめて集約する。【授業分析・評価力】	

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の活動やめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">つくったアンサンブルを聴き合い、意見を出し合ってブラッシュアップしよう。</p> </div> <p>2. 中間発表。 ・○○の音と△△の音の重なりがおもしろい。 ・□□の音でリズムが刻まれているが、□□の音ではないように聴こえた。 ・テーマがもっと伝わる音の使い方ができればいいのではないか。</p> <p>3. 中間発表についてグループで協議しながら、最終発表に向けてアンサンブルをブラッシュアップする。 ・もっとテーマが伝わるように、☆☆の音をたくさん入れてみよう。</p>	<p>○ 本時では創作したアンサンブルの中間発表を行い、各グループの発表を聴き合いながら創作活動を進めていくことを伝える。</p> <p>○ 発表時は、「Koala Sampler」の音がしっかり聴こえるように、スピーカーから音を出すようにする。</p> <p>○ アンサンブルによって「グループのテーマが表現されているかどうか」という視点をもって発表を聴くように伝える。</p> <p>○ 各グループの発表後、「グループのテーマが表現されているかどうか」という視点から興味深く感じた点や改善点についてロイロノートのカードに記入するように指示する。また、そのカードを発表したグループの共有ノートに送付し、グループ同士の意見交流ができるようにする。</p> <p>◆ 録音した「生活や社会の中の音」を使い、設定したテーマをアンサンブルで表現できる。【思考・判断・表現】</p> <p>○ 自分たちのグループの中間発表を自己評価し、他のグループの意見も参考にしながら活動するように伝える。</p> <p>○ 次時に最終発表を行うことを伝え、見通しをもつことができるようにする。</p>